

JA秋田厚生連・平鹿総合病院

Hiraka General Hospital

平鹿総合病院の理念「四つの柱」



より高度な臨床
より深い研究
より広い教育
より積極的な保健活動

地域医療連携室 だより

Community Healthy Network News



もくじ

- 総長ご挨拶……………②
- 院長新任のご挨拶……………②
- 副院長新任のご挨拶……………③
- 診療部長のご紹介……………③
- 新任の診療部長のご紹介……………③
- 看護部長・副部長のご紹介……………③
- 当院での取組み……………④
- 紹介患者様受付場所……………④

病院住所／〒013-0042 横手市前郷字八ツ口3番1
TEL／0182-32-5121 (代) FAX／0182-33-3200

[地域医療連携室連絡先]

● 地域医療連携室

TEL/FAX 0182-32-0698

● HP : <http://www.hiraka-hp.yokote.akita.jp/>

総長より 平成20年度ご挨拶



平鹿総合病院
総長
林 雅人

今年は雪の多い長い冬でしたが、春がくると急に暖かくなり、桜も瞬間的に散ってしまったような感じです。

さて、平鹿総合病院の地域医療連携室も新スタッフを投入して、コンピュータ化を更に進め先生達との連絡を密にするよう努力しております。

病診連携、病病連携は現代医療のキーワードでしたが、厳しい医療環境にあってこれからの医療はそれが根幹的なものになりつつあります。

いつもの事ですが連携室の仕事は先生達からスムーズな紹介の受け入れと、退院後の行き先の確保が最も大切な業務なので、何でもお気付きのことがありましたら連絡していただければそのよう改善致します。

そのため今後とも更に努力しますので宜しくお願い致します。

院長新任のご挨拶



平鹿総合病院
院長
平山 克

平成20年4月1日付を持ちまして、病院長を拜命致しました。その責任の重さに身の引き締まる思いであります。自身のキャリアの中で、さらに大きな責任を有するポジションに付くことは“男子の本懐”であると考え、誠心誠意に務めたいと張り切っております。

さて、当院は開院以来、農民及び農村地域を対象とする医療・保健活動を基本理念とし、現在では、当二次医療圏における急性期医療を中心とした地域中核病院としての役割を担っております。さらに、臨床研修・がん診療連携拠点・エイズ拠点・へき地医療中核病院等、多くの医療機能を有しております。従いまして、現時点での課題も多様多岐に亘り、その解決／改善の糸口の一つは、まさに“医療スタッフの充実”であると考えております。当院の自助努力は論を待ちませんが、必須キーワードが「地域医療連携」であります。

第5次医療法改正に基づいた平成20年度・秋田県新医療計画の最重課題である4疾患5事業の展開においても、疾病別・事業別の医療連携ネットワークの形成が必要不可欠とされております。当院としましても、これまで以上に病診、病院連携に取り組む所存でありますので、更なる充実に向けて諸先生方のご理解・ご協力をお願い致します。さらに、地域住民の皆様に対する情報発信にも積極的に取り組んで参ります。地域医療連携室は、こうした機能を推進するためのエンジンの役割を担っております。引き続き人員体制の強化を図り、今年度からは、セカンドオピニオン外来の機能も付加させております。諸先生方からの当室に対する忌憚のないご意見やご提案をお寄せいただければ幸いです。

最後になりましたが、当院の健全な運営と地域への貢献のため、全力を尽しその職責を全する所存でありますので、何卒格段のご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

副院長新任のご挨拶



平鹿総合病院
副院長

佐藤 一成

どきどき。あれ？ほっ。先日報道された都市別平均余命の結果への率直な感想です。こうした医療統計のほとんどでは、当秋田県関係の数値はいつも最下位レベル。今回もそうかなと不安な気持ちで新聞を見たのに、最下位から10番以内のリストに秋田県の都市名は、男女とも無かったのです。気分が軽くなる思いでした。ただし、このワースト10には東北地方の他県の都市が、いくつも入っていたので、我々としては安心しきることはできません。一方、別の統計は、がん、脳血管疾患、心臓疾患の三大成人病を除くと、秋田県の平均余命はトップレベルだとか。つまり成人病以外の医療レベルは、水準かそれ以上にあると言えるのでしょうか。したがって、秋田県の医療レベル向上に、三大成人病を制御することが、いかに重要であるかがあらためて再認識されます。こうした慢性疾患の診療は、地域医療連携が効率よく機能しなければ、十分な効果が上げられないのは明らかです。医療統計記事をわくわくしながら、楽しみにみられる日が早く来るよう、微力を尽くしたいと存じます。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

室長のご挨拶



地域医療連携室
室長

荻原 忠

今年の春は早足で来ました。桜の開花が10日以上早かったとか。

連携室の一年もあっという間に過ぎました。専従職員の配置と外来に近い場所を確保したことにより、まだ十分とは言えませんが、サービスの向上を図れたと思っております。病院の機能向上に伴い紹介の患者さんも増加し、担当者はくるくる走り回っています。

一方、連携室に期待される働きも増え、オープンベッドの運用管理面の関わり、診療情報共有化システムの配置（県指定事業の一部）、セカンドオピニオン外来の窓口などの新機能が追加になりました。これらの機能を有効に運用することが、2年目の課題です。

大きく見れば、病院間の機能的な分化と連携を進める厚生労働省の政策に対応した病診・病病連携の推進に対応できるかという課題があります。高齢化と医師・看護師等のスタッフ不足にさらされているこの地域の実状に合った連携システムが、関係機関の協議の中から生まれてほしいと願ってやみません。

現場の課題は多岐にわたっており、様々な事例に適切に対応できているとは言えない現状ですが、皆様のご指導をいただきながら前進していきたいとスタッフ一同念願しております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

新任の診療部長の紹介

看護部長・副部長の紹介



伏見 進
(脳神経外科)



高橋 俊明
(第二内科)



土田 妙
(看護部長)



今田 文子
(看護副部長)



小西 美喜子
(看護副部長)

当院では、以下のことに取組んでおります。

患者様のニーズに合った医療や看護を提供させて頂いております。

特色のある医療体制

- 救急センターとして機能しております。
- ヘリポートを設置しております。
- AED実施訓練の継続強化をしております。
(院内10ヶ所に設置)
- 乳腺科を開設しております。
- 災害拠点病院として機能しております。
- エイズ拠点病院として機能しております。
- 地域療育として障害児のリハビリテーションに力をいれております。
- 4階「もり」病棟の産科では、地域周産期センターが開設された秋田赤十字病院総合周産期母子センターや、秋田大学産婦人科と連携して周産期管理を行っています。またLDRの病床（3床）を持ち、安心して快適な分娩ができます。
- がんに対する医療相談を行っています。
- 病院OBの方々並びに市民有志の方々よりボランティア活動を支援していただいております。

セカンドオピニオン外来

当院以外の主治医にかかっている患者さまを対象に、診断内容・治療方法に関して、当院の意見・判断を提供いたします。その意見・判断を元に、患者さまご自身の治療に際して、参考にしていただくことを目的にしております。

秋田診療情報提供システム

参加医療機関の間で、登録いただいている患者さまの情報を共有し、より質の高い医療サービスを提供するためのシステムです。

登録された患者さまには、「登録カード」を交付いたします。

開放病床（共同利用ベッド）

ご登録いただいている開業医の先生方のご依頼に応じ、開放病床（共同利用ベッド）を準備いたします。地域医療機関相互の密接な連携と機能分化の促進、医療資源の効率的活用を目的にしております。

日曜夜間小児救急医療体制

- 場所：救急センター 第1診察室
 - 日時：毎週日曜日 午後6時～午後9時
- ※現在、横手市医師会の先生方のご協力をいただいて、診療をしております。

紹介患者さま受付と地域医療連携室設置場所



スタッフ

室長	荻原 忠
副室長	高橋 俊明・齋藤 研
医事課長	久米川 均
看護師長	高山 国子
事務	大沢 貞子

スタッフ一同心を込めて対応いたしております。
どうぞよろしくお願いいたします。